

## 6年生の心と体「6年生とはどんな子供か」

6年生懇談会資料

### 体の発達

○5年生までは、それほど伸びなかった身長、体重、胸囲なども6年生になると急速に発達する（第二次性徴）。このように体の変化が大きいと発達のバランスが取れず、消化器や腎臓、関節などに障害が起きやすい。心身のバランスもうまく取れなくなり、心の面への影響も出やすい（心の発達）。

○発達の個人差は大きいので、自分の体にコンプレックスを感じる子供が出てくる。発達には個人差があることを納得させ、安心させることが必要である。

★対策★家庭での生活基盤をしっかりと。（寝る時間・朝ご飯・十分な休養）

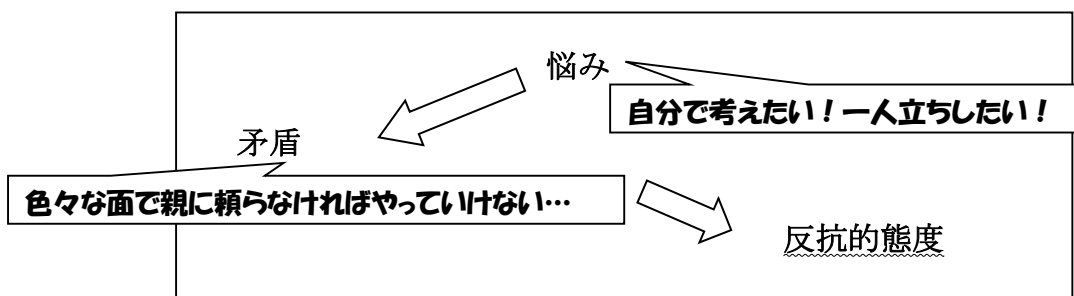
### 心の発達

○自分で考え判断できる、判断したくなる。

・自分なりの基準を持つようになるので、大人に対する見方、考え方が大きく変わってくる。

○反抗的になる、批判的になる。

・納得できないことについては、相手が親や教師などの大人であっても、反抗したり、批判したりするようになる。



★対策★子供の「とまどい」を待つ余裕が欲しい。

○理屈っぽくなる。

・思考力が伸びている証拠でもある。

○抽象的、論理的、客観的に考える。

・自己中心的な考えがなくなってきて、物事があるがままに冷静に考えるようになる。

・反面、自分の性格について悩んだり、秘密をもったりするようになる。

○親と口をきかなくなる。

- これは、子供が融通性のある考え方ができないからである。
- 親はとにかく子供扱いするので、独立心の旺盛な子供にとっては大きな不満なのである。そこで、自分の気持ちをはっきり表現しなくなる。その代わりに、友達には、何でもはっきり話すようになる。
- 子供は親離れを始めたのに、親が子離れできないでいる。

★対策★お互いのふれあいを大切に！

- ①自然に話せるような雰囲気作り
- ②親のいつでも子供を迎え入れるという姿
- ③家庭での子供の居場所づくり（好きなことをする時間も大切）
- ④親から見て些細なことも子供にとっては深刻なことがあることを理解する。

○友人関係では、単なる遊びまわる関係から、友人との内面的な心の交流を求める。友達を選ぶのに、「尊敬」や「共鳴」といった基準を持つようになる。

○異性関係では、対立や反発を示す反面、異性への行為や関心が高まる。

6年生は、子供から大人へ背伸びをしようとする時期です。思いはあっても行動が伴わなかったり、心のバランスがくずれたりします。大切なのはいつまでも子供扱いしないで、1人の人間として認めることです。いつでも自分自身の行動に責任をもつようしっかりしつけましょう。